

令和元年度笛吹市総合教育会議 会議録（概要版）

I 日 時 令和2年2月7日(金)
開会 午後3時00分 閉会 午後4時10分

II 場 所 笛吹市役所本館3階303会議室

III 出席者 笛吹市長 山下 政樹
教育長 小澤 紀元
職務代理者 齊藤 文栄
教育委員 廣瀬 光男
教育委員 保延 ちさと
教育委員 芦澤 文
欠席者 教育委員 久保田一男
傍聴者 なし

IV 説明のため出席した者の職氏名
教育部長 宇佐美正博
教育総務課長 岩間 正剛
学校教育課長 長野 篤雄
教育総務課主幹 坂本 淳

V 事務局職員の職氏名
経営政策部長 深澤 和仁
経営企画課長 西海 好治
経営企画課主幹 荻原 昭
経営企画課副主幹 保崎 貴之

VI 協議・調整事項
(1) 笛吹市教育大綱の改定（案）について
(2) 意見交換
(3) その他

VII 議事経過の概要 次のとおり

1 開 会 (司会進行:西海政策課長)

司 会 : 令和元年度笛吹市総合教育会議を開催する。
会議を始める前に「会議は公開をする」とされているが、今回、傍聴人がいないことを報告する。また、議事録を市のホームページにおいて公開する。
山下市長からあいさつを願う。

2 あいさつ

山 下 市 長 : コロナウィルスの蔓延で大変なことになっている。この調子では、多分、春先まで影響が出るのが予測される。特に石和・春日居温泉のホテル、旅館業の方々は大変厳しい状況にあり、国、県の支援協力を求めるため、昨日、副知事にその要望書を提出した。少しでも支援ができるように体制づくりを進めている。
本日は、年に1回の総合教育会議である。教育大綱の改正がある。委員各位が、日頃感じていること、これから笛吹の教育がどうあるべきか等について、是非とも忌憚のない意見をいただきたい。

司 会 : 次第3「協議・調整事項」に入る。
進行は、設置要領第3条の4に基づき市長が座長を務める。

3 協議・調整事項 : (議事進行:山下市長)

(1) 笛吹市教育大綱の改定(案)について

山 下 市 長 : 進行役を努めさせていただく。
(1)笛吹市教育大綱の改定(案)について、事務局からの説明を願う。

政 策 課 : 【笛吹市教育大綱(案)について説明】
(荻原リーダー) 教育大綱の改定に当たり、1月8日開催の定例教育委員会の後に、教育委員各位に法律上の位置づけや大綱に係る文科省の考え方などを説明し、教育大綱に係る本市の考え方について説明した。その上で、教育大綱の改定の素案を示し、教育委員各位から意見をいただいた。政策課と教育委員会事務局において、その意見等を踏まえて検討、協議を行い、今回、改定案としてお示しする。

山 下 市 長 : 委員各位から意見又は質問等あればお受けする。

廣 瀬 委 員 : 事務局からの説明内容について、特に個人的に「いいな」と思ったのが、大綱案の8ページ、基本目標の7「芸術や文化、歴史の香り高い地域づくり」の「歴史」というところに、とても惹かれるものがある。地域の中において、精神的にも立派な人間を育てていく、また育つ、子どもさんたちを含めた、人材育成の中で「地域の持っている歴史の力」というのは、見過ごせないものがあると思う。その流れの中で、大綱案の8ページの下の方に赤い文字で書かれている「魅力の発信の取組や『甲斐国千年の都』にふさわしい地域づくり」について、このフレーズから何を連想して、どういう成果をつくっていくか、具体的な目標を掲げて、それは毎年変わっていてもいいし、5年、10年というスパンで成し遂げていくということでもいいが、何か具体的な取組につながればいいと思う。希望とすれば、基本目標7の中で、地域の新しい文化が育つとか、人が育つとか、普遍的なテーマへの取組が生まれることを期待したい。そういう中では、自分たちも汗を流していく必要がある。このまちに暮らしている一員として、まちづくりに協力していくことを実践していきたい。

齊 藤 委 員 : 大綱案3ページの「豊かな心の育成」の中にある「不登校、いじめ、暴力行為などの諸課題の解決に向けて取り組みます」の「解決」という言葉が、非常に良かったと思う。これまでは「改善」という文言であった。それが「解決」になり、課題に向けて、市として、教育委員会として、より一層、強い意思表示になっていることが感じられ、非常に良いと思う。

また、私も、基本目標7のところ「甲斐国千年の都」について意見した。笛吹市には、縄文土器をはじめ、いろいろな文化遺産があり、千年の都の他にも文化財を大切にしてもらいたい。何千年も前から、現在の笛吹市を培ってきた人、遺産、歴史そういう部分を大切にもらいたいという思いを教育大綱に取り入れていただきありがたい。

基本目標6に「スポーツ施設の充実」が特出しされたことについても、説明を聞いて、よりよく分かった。また、基本目標3の「質の高い」とは何を示しているのかについては、修正によって、更に具体的に示されていて良かったと思う。

近年の災害発生を受けて、学校施設等の安全確保について騒がれている。是非、安全、安心な施設の維持管理について、これからも重要視していただきたいと思う。

山下市長：他にありますか。

小澤教育長：教育大綱は、市長及び市長部局の考えに基づき検討され、教育委員会においても内容の検討を行い策定された。新たな大綱にあつては、市長と教育委員会の考えがしっかりと同じ方向を見ながら進んでいることが認識できるものとなり、しっかりとした指針を示すことができた。感謝を申し上げる。

山下市長：この改定案について、了承いただけるということでよろしいか。

委員一同：異議なし

山下市長：それでは大綱(案)の「案」を外していただき、新たな教育大綱とさせていただきます。

(2)意見交換

山下市長：議題を限定せず、委員各位から自由に意見をいただきたい。

廣瀬委員：私達の会社は境川にあるが、境川にある9つの企業が集まり、境川企業連絡協議会を組織している。その事業の目標は、ボランティアとして、地域の学校への協力する活動を核として、企業間のコミュニケーションを図ることとしている。発足後、1年が経過するが、先般、教育長にもその企業連絡協議会の賀詞交歓会に同席いただいた。教育分野の方に参加いただくことは珍しく、会員一同が喜んでいて、我々とするれば、自然体で、地域の企業が地域の学校に協力していくという、極めて当たり前の活動を行っているが、この活動を、拡大していこうということで、この場で説明をしたい。

境川企業連絡協議会は、地域の境川小学校及び浅川中学校の学校教育に協力していこうということで、昨年2月に活動をスタートし、1年が経過した。浅川中学校の校長と話をする中で、一つ困った問題があるので、何とかしたいと相談があった。その問題とは、大綱の中にも記載されているが、学校では「キャリア教育」が行われていて、クラス単位で、企業の方を招いて、講話をしてもらおうという授業がある。その講師を探すのがなかなか大変だということであった。校長に「地域の企業に声をかけることはないのか」と聞いたら「接点がなく、声かけをしていない」とのことであった。

これは何とかしなければいけないということで、今年1月から動き始めて、境川企業連絡協議会のメンバーへの声かけと、八代町の企業数社を個別訪問して、地域の学校へのキャリア教育への協力を要請して歩いた。結果、6社から協力をさせていただくこととなった。

「少子化時代もあって、子どもたちは大切な存在であり、いずれ巡って我々の社員になるかもしれない。でもそれはそれとして、地域の文化として、教育文化を掲げていこうじゃないか」というふうに話が進展していった。

それには、学校任せではなくて、地域が協力する体制、価値感などを表にしっかり出していこうじゃないかということで、限定的ではあるが、浅川中学校を中心としたキャリア教育や就業体験への協力を通して、そういう考え、協力体制が、笛吹市全域に広がればという思いで「教育という分野を通した新しいまちづくり」に取り組みたい。これが大きくは一点。

あと一点は、この大綱でも触れているが、地域の歴史、文化の中で、子どもも大人も、他の地域に対して「私の町はこんな町で、歴史的にはこんな人たちも生まれて、やはり凄い地域なんだ」ということを誇れるよう、歴史・文化にスポットを当てて、まちの文化度、素晴らしさを標榜していてもいいのではないかと。人口規模や経済力では、どうしても大きい自治体に負けてしまう。だからといって「自分たちのまちは小さくて駄目だ」と思うのではなく、この地域に住む子どもや我々大人が誇れるものをつくっていったらと思う。

山下市長：廣瀬教育委員からキャリア教育についてお話をいただき、地域の歴史・文化をこれからしっかり育んでもらいたいとの意見をいただいた。このことについて、皆さんから意見がありますか。

小澤教育長：廣瀬教育委員には、いつも学校教育に協力をいただき、御自身では説明しづらいかと思われるので、私から、昨年の実績を基に説明をさせていただきます。中学校では、授業の一環として、生徒が班を組んで、色々な企業を訪問し、大人たちが働く職場で仕事を体験したり、いろいろな職種について学ぶ機会があり、市役所や、保育所にも体験に来ている。その中で、廣瀬委員の説明のとおり、境川の企業が中心となって、学校教育に熱心に協力いただいている。また、来年度からは、学校において、プログラミング教育が始まるが、この授業は、プログラムをただ作るというよりも、しっかり構成された理論のもと、考え方をつくっていくというもので、先生方も授業の進め方に苦慮している。

そこで、株式会社ジインズの協力をいただき、夏休みには、ジインズのエンジニアの方々に、講師として学校にお越しいただき、教員にプログラミングの基礎を教えてくださいました。また、夏休み期間中の「ものづくり教室」では、境川地域の子どもたちが、夏休みの自由研究や工作、スライム作りなどを行う企画となっていて、マーカーなど色々なものを企業側で購入していただき、それらを使って、子どもたちが自由に研究や、工作を行うことができ、OBの先生方や現職の先生も加わって指導していただき、30人以上の子どもたちが集まって、楽しんでいました。今後も、境川の地域だけでなく、笛吹市に広くその流れが広がることを期待したい。

山下市長： せっかく廣瀬委員が、境川でキャリア教育の足掛かりを作っていたので、こういった考えや協力体制を、全市の中学校、小学校に広げられるよう、教育長が中心になっていただき、展開していただければと考える。その際は、廣瀬委員に、協力を願う。

職場体験については、必ずしも、情報系だけでなくもいいと思う。建築現場を見せてもいいと思う。家はこうやって作るんだとか、浅川中学校は老朽化で、そろそろ対策を考えなければいけない時期だが、学校はどうやって作るのかとか、ホテルでは、中を見てもらって、どういうふうになっているのかを見るのも面白いと思う。やり方は、その地域の特性を生かしながらやるのもいいと思う。とにかく、これからは人材難、人材不足である。子どもたちが、将来どのような職業に就くのかかわからないが、その過程をしっかり教えられる機会をつくることが重要である。結婚して、子どもを産み育てることも重要、働いていくことがどれだけ厳しいか、お父さん、お母さんがどれだけ毎日頑張っているのか、そんな姿を見て体験するいい機会だと思うので、是非とも続けていただき、境川で始まった活動が全市に広がるよう協力をいただきたいと思う。

この話題以外で、委員各位から何かあれば意見をいただきたい。

保延委員： 先ほど市長が言ったように、市内企業による学校教育への協力について、是非、活動を広めていただきたいと思う。大綱の基本目標の中にも、芸術や文化、歴史等の記述があったが、スコレーセンターに、素晴らしい音楽などを発表する場がある、そういった機会を、小さい子どもたちに広めてもらいたいということを常に感じている。

芦沢委員： 廣瀬委員の話を、毎回、興味深く聞いている。人材を育てていく過程で、その種まきをすることがとても大切だと思う。職場体験を通して、自分の好きなことや適性を見つけれられることは良いことだが、働くことの楽しさや意味、人生を楽しむこと、未来が明るいことなどを、私たち大人が、子どもたちに示していくことも、大人の役割ではないかと思う。

山下市長： 「我々の頃は」と言っただけとはいかないかもしれないが、子どもの頃、働くなんてことは、当たり前で、「なぜ働くのか」なんてことは考えもしなかった。ただ「お金が欲しいから働くんだ」「生活ができないから働くんだ」という考えが基本にあった。

テレビを見ていると、最近の子どもたちは、とても深く物事を考えるのか、「働くこと」「結婚すること」「子どもを産み育てること」の必要性について問われる。

芦沢委員が言われたように「我々は、なぜ働くのか」「なぜ結婚して子どもを産み育てて、この地域を良くしなければいけないのか」について、子どもたちと議論をしていく必要がある。今までは、各家庭で、おじいちゃんやおばあちゃんや両親と話をし、また、働いている姿を見ながら、こういう大人になっていくんだと、日常生活の中で経験することができたのかもしれないが、今、お父さん、お母さんも忙しいので、なかなかそういうことを話したり、またコミュニケーションの時間が少なかったりする。最近では、お父さんと息子が、キャッチボールをあまりしないとも聞く。だから、そういった根本的なことも、こういう場で議論しながら、子どもたちに、どのように「笛吹教育」を発信していくかについて研究したいと思う。現役の先生方も含めて、こういう場で色々議論したい。そういった人生の基本的なことを子どもたちに教えていくのも重要なかもしれない。また意見をいただきたい。

齊藤委員： 廣瀬委員には、本当にキャリア教育において、地元の企業を巻き込んだ教育を設定していただき、教育現場が、なかなか踏み越えられないところの接点を作っていたという功績は、非常に大きいと思う。

今後、キャリア教育だけではなく、環境教育においても、企業が果たしている役割があると思うので、徐々に広げていただきたい。今、ゴミの問題とか、環境の問題も多く言われている、温暖化が進み、環境が悪化しているときだからこそ、企業、行政、市民の全てが環境教育に取り組んでいただきたい。以前、現役の頃、笛吹市にあるごみの分別施設や廃油から燃料を精製する施設を見学して、子どもたちに非常に好評であった。将来の笛吹市を支えていく子どもたちが、本市の中で育っていくため、学校だけではなく、様々なところでネットワークを築きながら、上手く連携できたらと思う。

山下市長：何の話題でも結構です。普段気がついてることで何か
教育長、全体的に見て、委員各位への報告、伝達事項がありますか。

小澤教育長：当初予算の件については、昨日、教育委員会があったので、冒頭で大型提示装置の整備、民間プールの活用検証の件について説明した。浅川中学校の改修工事についても、着手することについて説明した。

市長は、いつも子どもたちのことを心配してくれている。

昨年4月に、市長から朝食を食べずに学校に登校してくる子どもを危惧する話があった。現状を調べたところ、該当する子どもが何人かいた。表に出ないケースもある。

フードバンク山梨で、年2回、高校の体育館を借りてボランティアで食品のパッケージ作業を行っているが、山梨県全体で何千件という配布件数の中で、3分の1くらいが笛吹市であった。普段、目に見えない中で、本市には貧困家庭が多く存在しているのが現状である。市長は、そのことにも非常に気を配っているが、朝の登校時、子どもに、強引に朝食を食べさせるわけにはいかず、いろいろな事情があるので、内々に対応する方法を考える必要がある。

また、数年前、生徒が落ち着かない状況にあった学校に、学校安全サポーターを導入して、そういった生徒たちと専門に関わる体制をつくった。また、先生方の努力によって、子どもたちの学習に対する姿勢も改善が見え、今までは、学習活動に参加しない生徒がいると、そちらになびいてしまう傾向があったが、今ではそういうことがなくなり、勉強に気持ちが向いてきている。

山下市政においては、「教育」という分野がかなりのウエートを占めていることを強く感じている。そして、そのことによって、かなり成果が出てきていると感じている。この機会でないと、このような話ができないので、少し紹介させていただいた。

山下市長：市長に就任して、前教育長と1年間、時間をかけて、市内の学校の全てのクラスを視察して歩いた。学校を訪問し、校長先生と30分くらい学校の要望や課題について本音の話を聞いた。市内中学校のあるクラスを訪れた際、生徒が落ち着かず、授業に集中できない状況にあった。中学生くらいの年代は、ちょっとしたきっかけで、周囲の生徒になんとなくなびいて、影響を受けてしまう。

学校で起こる事案に対応するため、甲斐市の学校で、学校安全サポーターを導入して生徒指導に関わる取組を行っていた。そこで、3年ほど前から、本市でも同様の取組を行い、3年が経過する。これまで、学校に関わる皆さんが一生懸命頑張ってきてくれたことで、学校環境が、少しずついい方向に向かい変わってきている。

先ほど教育長から話があった貧困家庭の子どもに関しては、市内の小学校へ訪問した際に、校長から、貧困家庭が何件かあることを聞いた。校長は、担任から報告を受けて、児童の登校時の状況を見てみると、3日間同じような服で登校していた。児童に声をかけて、保健室へ呼び、小学校で備えている服に着替えさせ、「朝ごはんを食べていない」と言うので、少しパンなどを食べさせてから、授業を受けさせて、下校に間に合うよう洗濯した服に着替えさせてから、帰宅させた事例があった。こういうケースは結構ある話で、学校運営費で対応ができるよう措置した。子どもの様子だけで「貧困」と判断するわけにはいかないが、食事をとっていない子どもがいれば、少しでも食べてから授業が受けられるような対応をしなければならない。経済的に本当に厳しい家庭がある。

そういう中で、フードバンクは、個人情報をしっかり管理しながら、経済的に苦しい家庭に食料を提供してくれている。フードバンクの理事長から、笛吹市は貧困家庭が多いという話を聞いた。我々としても、少しでもフードバンクに協力したいという気持ちで、市内の企業に電話をかけて、フードバンクの募金箱の設置に多くの協力をいただいている。対応に苦慮する事案が学校現場には多くある。そういう「声なき声」に、できるだけ多く対応していけるように、現場の先生方にもよく見守っていただき、それを我々が応援していければと考える。委員の皆様も、是非、学校へ足を運んでいただき、情報を吸い上げていただきたい。「今、こんなことで苦しんでいます」という話を聞けば、それに対応していきたいと思う。また、教育長や教育部長に、色々御意見を賜ればと思います。

以上で意見交換を終了し、次第3、協議・調整事項を終了する。

4 その他

司 会： 次第4 その他。事務局、教育委員会事務局及び委員各位からいかがか。

事 務 局： なし

教育委員会： なし

事 務 局

委員各位： なし

5 閉 会

司 会： それでは以上で、令和元年度笛吹市総合教育会議を閉会とする。

午後4時10分終了